

## 平成 2 7 年度

東京藝術大学音楽学部・大学別科入学者選抜試験  
試験内容及び課題曲

(本冊子は表紙を含め全 4 4 ページ)

※発表した課題曲の内容等についての電話等による問い合わせには応じない。

~~~~~  
声種・楽器等の略記について  
~~~~~

本学では、下記のとおり声種・楽器名を略記することがあるので、参考までに記載します。

## 【 略 記 一 覧 】

専攻・声種・楽器名	略記	専攻・声種・楽器名	略記				
作曲	/	ホルン	Hr				
声乐	ソプラノ	S	金 器 管	トランペット	Tp		
	アルト	A		テナー・トロンボーン	TTb		
	テノール	T		バス・トロンボーン	BTb		
	バス	B		ユーフォニアム	Euph		
器	ピアノ	Pf	打 楽 器	チューバ	Tu		
	オルガン	Org		打楽器	Pc		
	弦	ヴァイオリン		Vn	古 楽	バロック声楽	BVo
		ヴィオラ		Va		バロックヴァイオリン	BVn
		チェロ		Vc		バロックチェロ	BVc
	楽	コントラバス		Cb		リコーダー	Rec
		ハープ		Hp		チェンバロ	Cemb
	木 管	フルート		Fl		バロックオルガン	BOrg
		オーボエ		Ob		フォルテピアノ	FP
		クラリネット		Cl	指揮	/	
ファゴット		Fg	邦楽	/			
	サクソフーン	Sx	楽理	/			
			音楽環境創造	/			

○ 略記の表現について

1. 原則として、2字以内にまとめた。
2. 科目名等は、日本語のままとし、声種・楽器名を略記の対象とした。

# 平成27年度東京藝術大学 学生募集要項 (音楽学部・大学別科) の配布について

---

1. 配布時期 12月上旬

2. 配布方法

(1) 学生募集要項は、無料です。

(2) 本学での配布は、音楽学部教務係または守衛所で行います。

(3) 郵送による申し込みは、下記要領に従い「返信用封筒」を郵送して下さい。

(配布時期の**2週間前**から受け付けます。)

申込用封筒 (定型封筒で可)  
[90×205mmまたは120×235mm]

〒110-8714	
92円 切手	東京藝術大学 音楽学部 教務係
	台東区上野公園 12   8
平成27 ・年 別度 科募集要項 請求	

返信用封筒 (角型1号封筒)  
[270mm×382mm]

〒〇〇〇-〇〇〇〇	
600円 切手	
氏	申
	込
	人
	住
	所
名	

←  
折り込む

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等	
作曲		第1回	与えられたバス及びソプラノの声部により、それぞれ4声体の和声を作る。 (各3時間)
		第2回	(1)厳格対位法:与えられた定旋律による3声華麗対位法と混合類各一題を作る (3時間)。 (2)与えられたコラール旋律により、バッハ様式で4声コラール一題を作る(2時間)。 (計5時間)
		第3回	与えられた主題、指定された形式(*)、編成により楽曲を完成する。なお楽器編成は下記から指定する。 フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン、 ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、ピアノ (8時間。ただし、途中昼食休憩の1時間を別に設ける。) *変奏曲、ロンド、ソナタ等の形式 ※形式及び楽器編成については当日指定する。

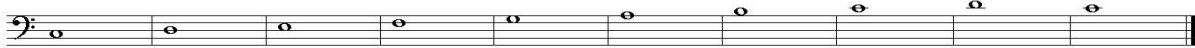
### 【例題】

#### 1. 厳格対位法

1. 次の定旋律(バス譜表)上に、任意のハ音記号を用いて移勢と4分音符による3声の混合類を作成せよ。

それぞれの対旋律をどの声部に置くかは自由。

尚、定旋律の他声部への置き換えはしない。移調または移旋はおこなわないものとする。



2. 次の定旋律(ソプラノ譜表)を高声部として、3声の華麗対位法を作成せよ。

尚、対旋律は、バス、テノール、アルトのいずれかの音部記号を用いること。

定旋律の他声部への置き換えはしない。移調または移旋はおこなわないものとする。



#### 2. コラール

次のコラール旋律をバス、テノール、アルト記号を用いて、四声体で作成せよ。

Choral



科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等	
声 楽	ソプラノ (S)  アルト (メソソプラノを含む) (A)	第1回	<p><b>〔課題選択曲〕</b></p> <p>志願者は、出願時に、次の頁に記載する課題選択曲の中から下記により合計8曲を選択し、提出すること。</p> <p>A. 日本歌曲 4曲</p> <p>B. 外国曲 4曲(外国曲〈イタリア、ドイツ、フランス〉のグループに関係なく自由に選択して良い。)</p> <p>志願者の提出した8曲の中から、本学が4曲(A.から2曲、B.から2曲)を試験当日に指定する。志願者は、その4曲の中から2曲(A.から1曲、B.から1曲)を選び、暗譜で演奏する。</p>
	テノール (T)  バス (バリトンを含む) (B)	第2回	<p><b>〔自由曲〕</b></p> <p>あらかじめ出願時に提出した任意の声楽曲1曲を暗譜で演奏する。ただし、第1回の課題選択曲として選択し、提出した曲を第2回の自由曲として選ぶことはできない。(従って、次の頁に記載された曲であっても、課題選択曲として選択しなかった曲を自由曲として選んで良い。)</p>
		第3回	<p>(1) F.Wüllner :Chorübungen I (全訳)。(抜粋及び省略本は不可)の中から試験の際指定する。</p> <p>(2) 新曲視唱</p> <p>(3) リズム課題</p>

科	声種	第 1 回 試 験 内 容 及 び 試 験 曲 等		
声		<b>課題選択曲</b>		
		<b>A. 日本歌曲</b>		
楽	ソプラノ (S)	1. 小松 耕輔	母	
	アルト <small>(メゾソプラノを含む)</small> (A)	2. 瀧 廉太郎	秋の月	
	テノール (T)	3. 瀧 廉太郎	荒城の月 (第1節、第2節のみ) [山田耕筰編曲]	
		4. 團 伊玖磨	秋の野 「六つの子供の歌」より	
		5. 中田 喜直	おやすみ 「六つの子供の歌」より	
		6. 成田 為三	浜辺の歌 (第1節、第2節のみ)	
		7. 信時 潔	北秋の 「沙羅」より	
		8. 信時 潔	行々子 「沙羅」より	
		9. 服部 正	野の羊	
		10. 平井 康三郎	平城山	
		11. 平井 康三郎	ゆりかご	
		12. 弘田 龍太郎	浜千鳥 (第1節、第2節のみ)	
		13. 山田 耕筰	鐘が鳴ります	
		14. 山田 耕筰	かやの木山の	
		15. 山田 耕筰	この道 (第1節、第2節のみ)	
		バス <small>(バリトンを含む)</small> (B)	<b>B. 外国曲・イタリア</b>	
			1. Bellini, V.	Ma rendi pur contento
		2. Bononcini, G.	Per la gloria d'adorarvi	
		3. Caldara, A.	Sebben crudele	
		4. Caldara, A.	Selve amiche	
		5. Cesti, M. A.	Intorno all'idol mio	
		6. Gasparini, F.	Caro laccio dolce nodo	
		7. Gasparini, F.	Lasciar d'amarti	
		8. Paisiello, G.	Nel cor più non mi sento	
		9. Scarlatti, A.	Già il sole dal Gange	
		10. Scarlatti, A.	Le violette	
		11. Scarlatti, A.	Sento nel core	
		12. Scarlatti, A.	Se tu della mia morte	
		13. Tosti, F. P.	Ideale	
		14. Tosti, F. P.	Sogno	
	15. Vivaldi, A.	Vieni, vieni, o mio diletto		
(次ページに続く)				

科	声 種	第 1 回 試 験 内 容 及 び 試 験 曲 等		
声	ソプラノ (S)	<b>B. 外国曲・ドイツ</b>		
		16. Beethoven, L. v	Ich liebe dich so wie du mich	WoO 123
		17. Brahms, J.	Dein blaues Auge	Op. 59-8
		18. Brahms, J.	Sonntag	Op. 47-3
		19. Mendelssohn, F. B.	Auf Flügeln des Gesanges	Op. 34-2
		20. Mozart, W. A.	Das Veilchen	KV 476
		21. Schubert, F.	Frühlingsglaube	Op. 20-2
		22. Schubert, F.	Schäfers Klagelied	Op. 3-1
		23. Schumann, R.	Die Lotosblume	Op. 25-7
		24. Strauss, R.	Zueignung	Op. 10-1
	25. Wolf, H.	Verborgenheit	Mörrike-Lieder 12.	
	アルト <small>(メゾソプラノを含む)</small> (A)	<b>B. 外国曲・フランス</b>		
	テノール (T)			
	バス <small>(バリトンを含む)</small> (B)	26. Berlioz, H	Villanelle	
27. Chausson, E.		Le colibri		
28. Debussy, C.		Nuit d'étoiles		
29. Fauré, G.		Clair de lune		
30. Fauré, G.		Ici-bas !		
31. Fauré, G.		Lydia		
32. Fauré, G.		Mai		
33. Fauré, G.	Notre amour			
34. Gounod, Ch.	Chanson de printemps	(第1節、第3節のみ)		
35. Hahn, R.	Si mes vers avaient des ailes			

(次ページに続く)

科	声 種	試 験 内 容 及 び 試 験 曲 等
声        楽		<p><b>声乐科志願者に対する注意事項</b></p> <p><b>1. 試験曲について</b></p> <p>(1) 第1回課題選択曲と第2回自由曲とは同一系統でなくとも良い。例えば、第1回選択課題曲においてB.外国曲・イタリアの曲を選んだとしても、第2回自由曲が日本歌曲であっても良い。</p> <p>(2) 試験の際の演奏は、第1回、第2回とも暗譜とする。(ピアノの伴奏) 第1回A. およびB. の課題選択曲ともいずれの調で演奏しても良い。ただし、B.外国曲の課題選択曲は原語歌詞により演奏すること。第2回自由曲は、歌曲(および一般に歌曲として扱われている古典アリアを含む)の場合、いずれの調で演奏しても良いが、オペラおよびオラトリオのアリアは原調で演奏すること。(ただし、オペラのアリアで慣習的に移調が認められている場合を除く。)</p> <p>(3) 志願者の演奏に与えられる時間は、次のとおりである。 第1回試験 2曲合わせて4分以内 第2回試験 4分以内 試験官の指示により演奏の途中で切ることがあるが、志願者の評価に不利になるものではない。</p> <p>(4) 伴奏者は本学で用意する。志願者が試験時に伴奏者を同伴することは認めない。</p> <p>(5) 志願者は、出願時提出する「受験曲目提出用紙」の写し(コピー)を、試験当日持参すること。</p> <p><b>2. 楽譜について</b></p> <p>志願者が選択した第1回課題選択曲および第2回自由曲のためのピアノ伴奏用の楽譜は、志願者が出願時に提出すること。楽譜提出後の曲目、調性等の変更は一切認めない。 (楽譜の提出方法については、12月上旬に発行する学生募集要項に記載する。)</p>

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等																																																																											
器	鍵盤 ピアノ (Pf)	<p><b>第一回</b></p> <p>a) J.S.Bach : 平均律クラヴィア曲集から第2巻(BWV870～893)より任意の1曲 (プレリュード及びフーガ) ※上記課題平均律クラヴィア曲集は全2巻からではなく、第2巻から任意の1曲となります。</p> <p>b) Chopin : 練習曲Op.10及びOp.25より任意の2曲を提出する。 b)については、当日各自の抽選により1曲を演奏する。 I)演奏は、すべて暗譜とする。繰り返しは省略する。 II)当日、時間の都合により一部を省略させる事がある。 III)曲順は、各自の自由とする。</p>																																																																											
		<p><b>第二回</b></p> <p>下記a)、b)より、それぞれ選択し提出する。</p> <p>a) Beethoven : ピアノソナタより任意の1曲(全楽章) b) 下記の作曲家群イ)及びロ)からそれぞれ1曲以上を選び、イ)から10分以上、イ)及びロ)を合わせて15分以上になるようにプログラムを組むこと。 イ) Schubert, Weber, Mendelssohn, Chopin, Schumann, Liszt, Brahms ロ) Fauré, Debussy, Ravel, Scriabin, Rachmaninoff, Prokofieff, Bartók なお、イ)のChopin, ロ)のDebussy, Scriabin, Rachmaninoff, Prokofieff, Bartókについては練習曲以外の作品を演奏すること。</p> <p>c) 課題曲演奏 I)演奏はすべて暗譜とする。 II)8小節程度までの繰り返しは自由とする。それ以外の繰り返しは省略する。 III)b)については、ソナタ・組曲からの楽章の抜粋は可。変奏曲の抜粋は認めない。 IV)演奏曲順は、c)、a)、b)イ、b)ロとする。 V)当日、時間の都合により一部を省略させることがある。 VI)c)の課題曲は平成27年1月23日(金)16時以降に本学音楽学部教務係及び守衛所での配布のほか、本学ホームページに掲載する。</p>																																																																											
器	鍵盤 盤 オルガン (Org)	<p>専攻実技試験で使用するオルガンの仕様</p> <table border="0"> <tr> <td>Pedal</td> <td>13. Krummhorn</td> <td>8'</td> <td>26. Nasard</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>1. Subbass</td> <td>16'</td> <td>14. Tremulant</td> <td>27. Superoktav</td> <td>2'</td> </tr> <tr> <td>2. Principalbass</td> <td>8'</td> <td>15. I/P</td> <td>28. Mixtur</td> <td>4f</td> </tr> <tr> <td>3. Rohrpommer</td> <td>8'</td> <td>16. II/P</td> <td>29. Trompete</td> <td>8'</td> </tr> <tr> <td>4. Choralflöte</td> <td>4'</td> <td>17. III/P</td> <td>(III) Schwellwerk</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. Piffaro</td> <td>2f</td> <td>18. III/I</td> <td>30. Rohrflöte</td> <td>8'</td> </tr> <tr> <td>6. Dulcian</td> <td>16'</td> <td>19. I/II</td> <td>31. Salicional</td> <td>8'</td> </tr> <tr> <td>(I) Brustwerk</td> <td></td> <td>20. III/II</td> <td>32. Vox coelestis</td> <td>8'</td> </tr> <tr> <td>7. Holzgedackt</td> <td>8'</td> <td>(II) Hauptwerk</td> <td>33. Principal</td> <td>4'</td> </tr> <tr> <td>8. Spillpfeife</td> <td>4'</td> <td>21. Quintade</td> <td>16'</td> <td>34. Blockflöte</td> <td>2'</td> </tr> <tr> <td>9. Principal</td> <td>2'</td> <td>22. Principal</td> <td>8'</td> <td>35. Sesquialtera</td> <td>2f</td> </tr> <tr> <td>10. Terz</td> <td>1%</td> <td>23. Gemshorn</td> <td>8'</td> <td>36. Scharff</td> <td>3f</td> </tr> <tr> <td>11. Oktav</td> <td>1'</td> <td>24. Oktav</td> <td>4'</td> <td>37. Hautbois</td> <td>8'</td> </tr> <tr> <td>12. Cymbel</td> <td>3f</td> <td>25. Holztraverse</td> <td>4'</td> <td>38. Tremulant</td> <td></td> </tr> </table> <p>[演奏補助装置] Handregister + 2 Freie Kombinationen, Zungen ab, Mixtur ab (Klais社製)</p>	Pedal	13. Krummhorn	8'	26. Nasard	2%	1. Subbass	16'	14. Tremulant	27. Superoktav	2'	2. Principalbass	8'	15. I/P	28. Mixtur	4f	3. Rohrpommer	8'	16. II/P	29. Trompete	8'	4. Choralflöte	4'	17. III/P	(III) Schwellwerk		5. Piffaro	2f	18. III/I	30. Rohrflöte	8'	6. Dulcian	16'	19. I/II	31. Salicional	8'	(I) Brustwerk		20. III/II	32. Vox coelestis	8'	7. Holzgedackt	8'	(II) Hauptwerk	33. Principal	4'	8. Spillpfeife	4'	21. Quintade	16'	34. Blockflöte	2'	9. Principal	2'	22. Principal	8'	35. Sesquialtera	2f	10. Terz	1%	23. Gemshorn	8'	36. Scharff	3f	11. Oktav	1'	24. Oktav	4'	37. Hautbois	8'	12. Cymbel	3f	25. Holztraverse	4'	38. Tremulant	
		Pedal	13. Krummhorn	8'	26. Nasard	2%																																																																							
1. Subbass	16'	14. Tremulant	27. Superoktav	2'																																																																									
2. Principalbass	8'	15. I/P	28. Mixtur	4f																																																																									
3. Rohrpommer	8'	16. II/P	29. Trompete	8'																																																																									
4. Choralflöte	4'	17. III/P	(III) Schwellwerk																																																																										
5. Piffaro	2f	18. III/I	30. Rohrflöte	8'																																																																									
6. Dulcian	16'	19. I/II	31. Salicional	8'																																																																									
(I) Brustwerk		20. III/II	32. Vox coelestis	8'																																																																									
7. Holzgedackt	8'	(II) Hauptwerk	33. Principal	4'																																																																									
8. Spillpfeife	4'	21. Quintade	16'	34. Blockflöte	2'																																																																								
9. Principal	2'	22. Principal	8'	35. Sesquialtera	2f																																																																								
10. Terz	1%	23. Gemshorn	8'	36. Scharff	3f																																																																								
11. Oktav	1'	24. Oktav	4'	37. Hautbois	8'																																																																								
12. Cymbel	3f	25. Holztraverse	4'	38. Tremulant																																																																									
<p><b>第一回</b></p> <p>(1) J.S.Bach “Orgelbüchlein”より次の曲から当日指定する。 BWV600, BWV601, BWV605, BWV609, BWV611, BWV613, BWV616, BWV618, BWV620, BWV622, BWV625, BWV627, BWV636, BWV639, BWV643</p> <p>(2) D.Buxtehude : Praeludium in a BuxWV153</p>																																																																													
<p><b>第二回</b></p> <p>(3) F. Mendelssohn-Bartholdy : Sonate II in c-moll op.65/2 (4) J.S.Bach : Praeludium et Fuga in G-Dur BWV 541</p>																																																																													
<p>(注1)(2)のD.Buxtehude : Praeludium in a BuxWV153は暗譜演奏とする。 (注2)当日、時間の都合により一部を省略させることがある。 (注3)各課題曲のレジストレーションについては、レジスタータイムに標準的な物を大学側が示すので、適宜参考にしてもよい。</p>																																																																													



## 試験内容及び試験曲等の一部訂正について (オルガン)

平成26年10月9日（木）より配布している「平成27年度東京藝術大学音楽学部  
・大学別科入学者選抜試験 試験内容及び課題曲」（本冊子）の一部に誤りがあ  
りましたので、以下のとおり訂正します。


### 器楽科 鍵盤楽器専攻 オルガン P.8

(誤) 第一回  
(2) D.Buxtehude : Praeludium in e BuxWV153



(正) 第一回  
(2) D.Buxtehude : Praeludium in a BuxWV153



科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等
器 弦	ヴァイオリン (Vn)	<p>(A) 音階</p> <p>Carl Flesch : Scale system より イ長調 (A Major) で、次のイ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘの各種を下記を参照し、演奏すること。</p> <p>(イ) 音階、分散和音、分散3度、半音階  (ロ) 3度の重音  (ハ) 6度の重音  (ニ) 8度の重音  (ホ) フィンガード・オクターヴ  (ヘ) 10度の重音</p>  <p>※指定されたスラーを厳守すること。フィンガリングは自由。</p>
		第一回

科	専攻 (声種・楽器等)		試験内容及び試験曲等	
器	弦	ヴァイオリン (Vn)	第一回	<p>(B) Paganini :24 Caprices より 第23番 E♭ Major</p> <p>※繰り返しは無しとする。 (注)すべて暗譜とし、使用する楽譜の版は特に指定しない。 時間の都合により一部を省略させることがある。 演奏は(A) (B)の順とする。</p>
	楽			楽

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等
---	----------------	------------

器 弦	ヴィオラ (Va)
	楽 楽

(A) 音階  
音階 Carl Fresch: Scale System (ヴィオラ用に編曲された版 (Carl Fischer版)より)へ短調 (F Minor)で、次のイ、ロ、ハ、ニの各種を下記を参照し、演奏すること。

(イ) 音階、分散和音、分散3度、半音階  
(ロ) 3度の重音  
(ハ) 6度の重音  
(ニ) 8度の重音

第一回

※指定されたスラーを厳守すること。フィンガリングは自由。

(次ページに続く)

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等	
器	弦	ヴィオラ (Va)	<p>第一回</p> <p>(B) J.S.Bach : 無伴奏チェロ組曲第2番ニ短調(D Minor) BWV1008 より (ヴィオラ用に編曲された版)</p> <p>Courante , Sarabande</p> <p>※繰り返しは無しとし、使用する楽譜の版は特に指定しない。</p> <p>(注) すべて暗譜とする。 時間の都合により一部を省略させることがある。 演奏は(A) (B)の順とする。</p>
	<p>第二回</p> <p>(A) Palaschko : 20 Studies Op.36 より No.6 Pastorale (Moderato) の1小節目、繰り返し記号の前まで ※使用する楽譜の版は特に指定しない。</p> <p>(B) C.Stamitz : Viola Concerto No.1 ニ長調 (D Major) より 第1楽章 Allegro (カデンツァ付き) ※Henle版を使用し、カデンツァはCadenza Aを演奏すること。</p> <p>(注) すべて暗譜とする。 (B)はピアノ伴奏付きで演奏する。 (伴奏者は本学で用意する。伴奏者の同伴は認めない。) 時間の都合により一部を省略させることがある。 演奏は(A) (B)の順とする。</p>		
楽	楽		

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等
---	----------------	------------

器	弦	
楽	楽	

(A)音階 J.Loeb : Gammes et arpèges～Billaudot版 より  
ホ短調 (E Minor) 譜例を参照のこと。

(イ) 4オクターヴの音階 (指使いは自由)  
♩ = 100 前後

(ロ) 4オクターヴの分散3度  
♩ = 100 前後

(ハ) 4オクターヴの分散和音  
(注) テンポは自由

(ニ) 2オクターヴの3度の重音  
♩ = 60 前後

(ホ) 2オクターヴの6度の重音  
♩ = 60 前後

(ヘ) 2オクターヴの8度の重音  
♩ = 60 前後

※指定されたテンポ、スラー及びフィンガリングで演奏すること。



(B) Duport: 練習曲 より  
No.20 (B Minor) 最初から126小節目まで  
※ Peters版またはIMC版 (International Music Company)を使用すること。

(注)すべて暗譜とし、繰り返しは無しとする。  
時間の都合により一部を省略させることがある。  
演奏は(A) (B)の順とする。

(次ページに続く)

科		専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等
器	弦	チェロ (Vc)	<p>(A) J.S.Bach: 無伴奏組曲第1番ト長調 (G Major) BWV1007 より Sarabande ※繰り返しは無しとする。使用する楽譜の版は特に指定しない。</p> <p>(B) J.Haydn: Concerto C Major より 第2楽章 (初めから第88小節まで) 第3楽章 (初めから第157小節まで) ※使用する版は自由。</p> <p>(注) すべて暗譜とする。 (B) はピアノ伴奏付きで演奏する。 (伴奏者は本学で用意する。伴奏者の同伴は認めない。) 時間の都合により一部を省略させることがある。 演奏は(A) (B) の順とする。</p>
楽	楽		



科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等
器 弦	コントラバス (Cb)	<p>(A) 音階 ハ短調 (C Minor)</p> <p>♩ = 52~60</p>  <p>※フィンガリングは自由とする。</p> <p>(B) Franz Simandle :30 Etudes for String Bass (Carl Fischer版) より No.7 Andante comodo G Major</p> <p>(C) Franz Simandle New Method for The Double Bass Book II (Carl Fischer版) より Division VII Etude I Allegro Moderato</p>  <p>※フィンガリングは自由とする。 (注) 全て暗譜とする。 演奏は(A) (B) (C)の順とする。 楽器の貸与はしない。</p> <p style="text-align: right;">(次ページに続く)</p>
		楽 楽

※コントラバスの楽譜の版について

指定された楽譜の版で入手が困難な場合は、本学音楽学部教務係に連絡してください。

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等	
器	弦	コントラバス (Cb)	第二回 Emanuel Storch :Konzertstück für Kontrabass und Klavier より 第1楽章 Allegro maestoso G Major ※ VEB (Deutscher Verlag für Musik Leipzig) 版 Heinz Herrmann稿 を使用すること。 (注)すべて暗譜とする。 ノーマルチューニング(G Major)で演奏すること。 ピアノ伴奏付きで演奏すること。 (伴奏者は本学で用意する。伴奏者の同伴は認めない。) 試験当日の G Major に移調された伴奏譜は本学で用意する。 伴奏の前奏部分の省略は当日指定する。 時間の都合により一部を省略させることがある。 楽器の貸与はしない。
		ハープ (Hp)	第一回 (A) F.Godefroid :20 Etudes Mérodiques より No.1 , No.8 (B) F.J.Naderman :7 Sonates Progressives より No.2 全楽章 (注)すべて暗譜とし、使用する楽譜の版は特に指定しない。 時間の都合により一部を省略させることがある。 演奏は(A) (B)の順とする。
楽	楽		第二回 (A) G.F.Händel :Tema con Variations (B) M.Tournier :Images pour harpe No.1 suite op.29 より Lolita la danseuse (注)すべて暗譜とし、繰り返しは無しとする。 使用する楽譜の版は特に指定しない。 時間の都合により一部を省略させることがある。 演奏は(A) (B)の順とする。

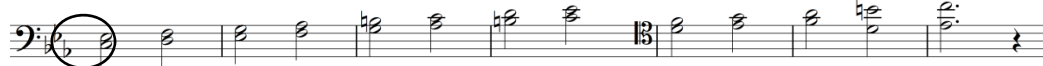
## 試験内容及び試験曲等の一部訂正について (コントラバス)

平成26年10月9日(木)より配布している「平成27年度東京藝術大学音楽学部・大学別科入学者選抜試験 試験内容及び課題曲」(本冊子)の一部に誤りがありましたので、以下のとおり訂正します。

### 器楽科 弦楽器専攻 コントラバス

(誤)


第一回 (A) 音階 ハ短調 (C Minor) 9段目



(正)

第一回 (A) 音階 ハ短調 (C Minor) 9段目



科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等
器 管   打		<p>◎木管楽器共通注意事項</p> <p>※出版社の指定のないものは、何版にても可。</p> <p><b>第1回</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音階 全ての調の中より当日指定する。 ※クラリネットは各調、次の音型(主和音)も演奏する。 (例)</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・音感適性検査 ピアノで弾いた音に対して、それぞれの楽器で同じ音を奏する。ただし、楽器によってはこの試験を課さないこともある。</li> <li>・課題曲 楽譜を使用してもよい。</li> </ul> <p><b>第2回</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題曲 暗譜とする。 課題曲には、ピアノ伴奏をつける。ピアノ伴奏者は、本学において用意する。</li> <li>・自由曲 各専攻楽器欄参照 楽譜を使用してもよい。</li> </ul>
		楽 楽
<p><b>第二回</b></p> <p>(1) T.Boehm : Fantaisie sur un air de Schubert ※Var. II・IIIはカットする。 ※テーマの<u>み</u>くり返しを行い、2回目は1オクターヴ上げる。 ※全音版(ゴールデン・エージ1巻)を使用する。</p> <p>(2) 次のa)～g)の中より任意の1曲を演奏すること。</p> <p>a) L.Berio : Sequenza I</p> <p>b) E.Bozza : Image</p> <p>c) C.Halfpfer : Debla (6分程度にカットすること)</p> <p>d) P.Hindemith : 8 Stückeより1, 2, 3, 5, 6, 8</p> <p>e) 一柳 慧 : 忘れえぬ記憶の中に</p> <p>f) S.Karg-Elert : Sonata “Appassionata”</p> <p>g) I.Yun : EtüdeよりNr.5</p>		
<p><b>第一回</b></p> <p>(1) L.Bassi : Twenty-Seven Virtuoso Studies for Saxophone or Oboe No.2,3,5,7,11,12,13,15,20,21以上10曲の中より当日指定する (Carl Fischer版)</p>		
<p><b>第二回</b></p> <p>(1) F.Krommer : Concerto in F major Op.52より第1楽章 (Musica Rara版)</p> <p>(2) G.Ph.Telemann : Zwölf Fantasien für Querflöte ohne Baßより 第3番h-Moll(何版にても可)</p>		

科	専攻 (声種・楽器等)		試験内容及び試験曲等		
器	管	木	クラリネット (Cl)	<b>第一回</b> (1) E.Cavallini : 30 Capricci No.25～28の4曲 (Ricordi版) (2) A.Uhl : 48 Etüden für Klarinette No.3～8の6曲 (Schott版) (3) C.Stamitz : Klarinetten-Konzert Nr.3 B-Dur(何版にても可)より 第1楽章, 第2楽章 (1) (2) (3)とも演奏箇所は当日指定する。	
				<b>第二回</b> (1) C.M.v. Weber : Konzert Nr.1 f-Moll für Klarinette und Orchester Op.73 第1楽章(ベールマンのカデンツァを含む) (2) a) U.Delécluse : 14 Grandes Etudes pour la Clarinette sur des motifs d'œuvres classiques et modernes (Leduc版)より 第3, 6, 8, 9, 14番の中より任意の曲を1曲 b) A.Uhl : 48 Etüden für Klarinette (Schott版)よりNo.12 c) G.Donizetti : Studie 最初から101小節目まで d) G.Jacob : Five Pieces for solo clarinet より 2.Waltz と 5.Scherzo and Trio a)～d)の中から、ひとつを選んで演奏すること。	
		ファゴット (Fg)	<b>第一回</b> J.Weissenborn : Studies for Bassoon Op.8 Vol. II (何版にても可) No.1～No.21の中から当日指定する。		
			<b>第二回</b> (1) K.Stamitz : Konzert F-Dur für Fagott und Orchester 第1楽章 (Sikorski版)カデンツァあり (2) J.Weissenborn : Studies for Bassoon Op.8 Vol. II (何版にても可) No.22～No.43より任意の1曲を演奏すること。		
	打	楽	管	サクソフォーン (Sx)	<b>第一回</b> (1) M.Mule : 48 Etudes d'après Ferling augmentées de 12 Etudes nouvelles en diverses tonalités より No.1, 14, 15, 22, 25, 26, 29, 36, 49, 60 の中から当日指定する。 (2) P.Creston : Sonata 第1楽章 (Shawnee版)
					<b>第二回</b> (1) A.Glazounov et A.Petiot : Concerto en mi bémol(Leduc版)より 練習番号 1 から 16 までを演奏すること。 (2) a) P.Bonneau : Caprice en forme de Valse (Leduc版) b) P.Creston : Sonata第3楽章 (Shawnee版) c) A.Désenclos : Prélude, Cadence et Finale より Prélude, Cadence (Leduc版) d) P.M.Dubois : Concerto 第1楽章 (Leduc版) e) J.Ibert : Concertino da Camera第2楽章 28 Animato molto から終わりまで (Leduc版) f) R.Boutry : Divertimento 第2, 3楽章 (Leduc版) g) J.Rueff: Sonate 第1楽章 (Leduc版) a)～g)の中から、ひとつを選んで演奏すること。 (3) 初見視奏

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等					
器	管	◎金管楽器共通注意事項					
		※出版社の指定のないものは、何版にても可。					
		<b>第1回</b>					
		(1)音階(トランペットを除く) 全ての調の中より当日指定する。但し、下記のリズムパターンで演奏すること。					
		(例:ユーフォニアム)					
		(2)課題曲 (注) 特に指定したもの以外は、楽譜を使用してもよい。 ただし、暗譜を指定されたもの以外は、当日、試験場に用意された楽譜を使用すること。					
		<b>第2回</b>					
		(1)課題曲 (注) 特に指定したもの以外は、楽譜を使用してもよい。 課題曲には、ピアノ伴奏をつける。ピアノ伴奏者は、本学において用意する。					
楽	管	打	金	ホルン (Hr)	<b>第1回</b> (1) C.Kopprasch :Sixty Selected Studies for French Horn, Book I , II (Carl Fischer版)第1, 3, 6~10, 12~19, 21, 22, 24~29, 31, 39, 41, 43, 48 の中より当日指定する。 (2) 次のa) b)より選択 a) Georges Barbotou :CINQ PIECES POETIQUES POUR COR SEUL EN FA よりI (CHOUDENS EDITEUR DE MUSIQUE版) b) Bernhard Eduard Müller :Etüden für Horn op.64 Studies for horn よりNo.3(何版でも可)		
					<b>第2回</b> W.A.Mozart :Konzert für Horn und Orchester Nr.4 Es-Dur K.495 第1楽章(第132小節目まで) 第2楽章(全部)		
		楽	管	打	金	トランペット (Tp)	<b>第1回</b> (A) Arban :Complete Grand Method (全音楽譜出版)より 長音階P.65~P.80、短音階P.81 第70~81番まで 上記の中より当日指定する。 (注)長音階第16, 22, 28, 34, 41, 50, 56, 62, 68, 69番は除く。 (B) C.Kopprasch :60Etudes for Trumpet (全音楽譜出版社版)(P.5~P.33) 第6番~44番の中より当日指定する。 (C) Th. Charlier :Trente-six Etudes Transcendantes pour Trompette Cornet à Pistons ou Bugle Si b Nouvelle édition (Leduc版) No.1, 2, 5より当日指定する。
							<b>第2回</b> Théo Charlier :Solo de Concours (Schott版) (注)B♭ Trumpetを使用のこと。

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等	
器	管	<p>◎テナー・トロンボーン、バス・トロンボーン共通課題</p> <p>E.Remington/Warm-Up Exercises for Trombone (Accura Music版)より下記の部分</p>  <p style="text-align: right;">第7ポジションまで演奏のこと。(注)暗譜とする。</p>	
		テナー・トロンボーン (TTb)	<p>第一回</p> <p>C.Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社版)</p> <p>(A) No.26 暗譜で演奏すること。</p> <p>(B) No.29,34,35,36,37,39,41,42,43,44の中から当日指定する。楽譜は使用して良い。</p>
			<p>第二回</p> <p>A. Guilmant : Morceau Symphonique Op.88 (Schott版またはKalmus版)</p> <p>(注) 暗譜とする。</p>
		バス・トロンボーン (BTb)	<p>第一回</p> <p>C.Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社版)</p> <p>(A) No.(19) 暗譜で演奏すること。</p> <p>(B) No.(37),(42),43,46,(49),50,(52),(54),55,56の中から当日指定する。</p> <p>楽譜は使用して良い。</p> <p>(注) ( )の曲は1オクターブ下で演奏すること。他は記譜通り。</p>
			<p>第二回</p> <p>E.Ewazen : Concerto for Tuba or Bass Trombone 第1楽章 (ITA Southern版)</p> <p>(注) 暗譜とする。</p>
		ユーフォニアム (Euph)	<p>第一回</p> <p>C.Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社版)</p> <p>No.6~No.33(No.29は除く)より、当日指定する。</p>
	<p>第二回</p> <p>P.V.De laNux : Solo de Concours pour Trombone et piano (Leduc版)、</p> <p>Concert Piece for Trombone or Baritone and Piano (Southern music company版)どちらの版でもよい。</p> <p>(注) 暗譜とする。</p>		
	チューバ (Tu)	<p>第一回</p> <p>C.Kopprasch : Sixty Selected Studies for Tuba(Hoffmeister版)</p> <p>No.6~No.33の中より、当日指定する。</p>	
		<p>第二回</p> <p>A.Lebedjew : Konzert für Tuba und Klavier (Konzert Nr.1) (Hoffmeister版)</p> <p>(注)暗譜とする。</p> <p>※第1回、第2回とも、C管かB♭管を使用すること。</p>	
	楽	管	

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等
器	管	<p>◎打楽器共通課題</p> <p><b>第1回</b> 1. リズム感のテスト  2. 任意の打楽器を用いてリズムをとりながら日本歌曲「浜辺の歌(成田為三作曲)」を歌詞をつけて歌う。  3. 聴音 ピアノにより音を与え音名を答えさせる。</p> <p><b>第2回</b> 1. 任意の打楽器を用いて音楽表現を試みる。(楽器のセットアップを含めて2分以内)  2. 初見視奏</p>
		打
楽	楽	

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等
器	管	<p><b>小太鼓</b></p> <p>(1) A.J.Cirone :Portraits in Rhythm (Belwin-Mills版) No.5,6,9,15,24,27 の中より当日指定する。</p> <p>(2) 鍵盤打楽器で音階2オクターブ演奏(各調の中より当日指定する。 -Dolce, Staccato等、表情をつけて) (例)</p>  <p>(3) 三善 晃:会話より 1, 3, 4 (音楽之友社・現代日本マリンバ曲集Ⅱ)</p>
器	打	<p><b>マリンバ</b></p> <p>(1) 自由曲</p> <p>(2) 小太鼓による演奏 Collection Drum Solos (Ludwig Music社版)P.4～P.11の中から 当日指定する。</p>
楽	打楽器 (Pc)	<p><b>ティンパニ</b></p> <p>(1) L.v.Beethoven :Concerto for Violin and Orchestra ニ長調 冒頭から6小節間 A.Khachatorian :Gayne Ballet suite 1 より Sabre Dance 冒頭より27小節間 (注) いずれもオーケストラパートを歌いながらティンパニを奏すること。</p> <p>(2) 小太鼓による演奏 Collection Drum Solos (Ludwig Music社版)P.4～P.11の中から 当日指定する。</p> <p>(3) 鍵盤打楽器で音階2オクターブ演奏(各調の中より当日指定する。 -Dolce, Staccato等、表情をつけて)(小太鼓の(2)譜例を参照のこと)</p> <p>(4) 三善 晃:会話より 1, 3, 4 (音楽之友社・現代日本マリンバ曲集Ⅱ)</p>



科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等
器 古	<p>◎古楽共通注意事項</p> <p>① ソロおよび伴奏に使えるチェンバロは、2段鍵盤フレンチタイプ(a'=415, 8'8'4', FF-f")のみとする。</p> <p>② バロックヴァイオリン、リコーダー専攻の試験に必要なチェンバロ伴奏者は同伴すること。</p> <p>③ すべての受験生は、受験曲目提出用紙に演奏する作品名を書いて、出願とともに教務係に提出すること。</p> <p>④ 各自の演奏する楽譜を3部ずつ用意して演奏順に綴じ(A4判に揃え、左上端を1箇所ホチキスで止める)、出願とともに教務係に送付すること。所定の出願用封筒に用意した楽譜が入りきらない場合、出願書類は所定の封筒にて提出し、当該楽譜のみ「古楽受験用楽譜在中」と表書きした任意の封筒にて出願と同時に書留速達により郵送すること。このとき、声楽科伴奏楽譜送付用封筒を用いてはならない。</p>	
	<p>チェンバロ (Cemb)</p>	<p>I. 下記の課題曲を演奏する。(当日一部省略を指示することがある。 繰り返し記号による繰り返しはすべて省略)</p> <p>①J.S. Bach :Das wohltemperierte Klavier 第1巻よりPraeludium und Fuga Nr.14, fis-Moll (BWV 859)</p> <p>②J.S. Bach :Das wohltemperierte Klavier 第2巻よりPraeludium und Fuga Nr.11, F-Dur (BWV 880)</p> <p>③次の3曲のD. Scarlattiのソナタより、任意の2曲。 K.113 (A-Dur)、K.141 (d-Moll)、K.490 (D-Dur)</p> <p>④G. Böhm :Suite, F-Dur (全楽章)</p> <p>II. 当日課する通奏低音課題を、チェンバロで実施する。(予見時間5分)</p>
	<p>バロック ヴァイオリン (BVn)</p>	<p>I. 下記の課題曲を演奏する。(当日一部省略を指示することがある。)</p> <p>①D. Castello, G.B. Fontana, G.P. Cima又は同時代のイタリアの作曲家の作品から1曲</p> <p>②F. Geminiani :The Art of playing on the violin (1751) Compositionから1曲</p> <p>③G.F. Handel, A. Corelli, J-M. Leclair のソナタより任意の1曲</p> <p>II. 当日課する通奏低音課題を、チェンバロで実施する。(予見時間5分)</p>
楽 楽	<p>リコーダー (Rec)</p>	<p>I. 下記の課題曲を演奏する。(当日一部省略を指示することがある。)</p> <p>①Jacob van Eyck :「笛の楽園」より任意の1曲 (ソプラノリコーダーを使用。ピッチは自由)</p> <p>②Jacques Martin Hotteterre :組曲 第4番 (Oeuvre Second, 1715) より任意の3つの楽章 (バロックタイプのトレブルを使用。ピッチはa'=415。ト短調に移調して演奏。最終楽章の2つのメヌエットは一つの楽章とすること。)</p> <p>③Francesco Maria Veracini :12のソナタ(1716年)より任意の1曲(全楽章) (バロックタイプのトレブルを使用。ピッチはa'=415)</p> <p>II. 当日課する通奏低音課題を、チェンバロで実施する。(予見時間5分)</p>

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等
指揮		<p>第一回</p> <p>(1) 聴音 (a)単旋律及び複旋律(ピアノによる) (b)受験者に楽譜を与え、試験委員の行う演奏との相違点を指摘させ、聴覚的判断力、和声感覚の能力を試験する。</p> <p>(2) 新曲初見視唱</p> <p>(3) 課題曲 W.A.Mozart :Symphonie Nr.36 'Linz' K.425 全楽章の中より、当日部分を指定して指揮させる。(ピアノによる)</p>
		<p>第二回</p> <p>(1) 課題曲 O.Respighi:Antiche danze ed arie per Liuto, III suite 当日、部分を指定して指揮させる。(弦楽合奏による)</p> <p>(2) ピアノによる簡易なスコア初見視奏</p> <p>(3) 器楽試験：弦楽器(ハープを含む)、管打楽器又はピアノのいずれかにより任意の曲を演奏させる。</p> <p>(4) 適性検査(ハーモニー感、リズム感等)</p> <p>(5) 音楽一般に関する試問</p> <p>(注) (1) 第2回の(3)器楽試験においては、弦楽器及び管打楽器の種類選択は任意とし、楽譜視奏も差し支えないが、すべて無伴奏とする。</p> <p>(2) 前号の器楽試験をピアノで受ける場合も、副科実技等の副科ピアノ試験は、別に受けなければならない。</p>

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等																	
<p>◎邦楽共通注意事項            受験者は、志願する部門に応じて下記の課題曲および自由曲を暗譜で演奏すること。            ただし、長唄・常磐津・清元の各志願者は、唄本（歌詞のみ）を用いてよい。            各専攻とも、二次試験に面接を課す。</p>																			
邦	三味線音楽	長唄三味線 常磐津三味線 清元三味線 長唄 常磐津 清元	<p>課題曲</p> <table border="1" data-bbox="646 443 1449 1019"> <thead> <tr> <th>志願部門</th> <th>課題曲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">長唄三味線 長唄</td> <td>吾妻八景 (四世杵屋六三郎 作曲)</td> </tr> <tr> <td>鞍馬山 (二世杵屋勝三郎 作曲)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">常磐津三味線 常磐津</td> <td>廓八景 (五世岸澤式佐 作曲)</td> </tr> <tr> <td>三保の松 (六世岸澤式佐 作曲)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">清元三味線 清元</td> <td>三社祭 (初世清元齊兵衛 作曲)</td> </tr> <tr> <td>卯の花 (磯女 作曲)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">邦楽囃子 (小鼓) " (大鼓) " (太鼓) " ( 笛 )</td> <td>連獅子 (二世杵屋勝三郎 作曲)</td> </tr> <tr> <td>老松 (四世杵屋六三郎 作曲)</td> </tr> <tr> <td>越後獅子 (九世杵屋六左衛門 作曲)</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>当日、この曲の中より試験官の指定する曲とその箇所を演奏すること。</p>	志願部門	課題曲	長唄三味線 長唄	吾妻八景 (四世杵屋六三郎 作曲)	鞍馬山 (二世杵屋勝三郎 作曲)	常磐津三味線 常磐津	廓八景 (五世岸澤式佐 作曲)	三保の松 (六世岸澤式佐 作曲)	清元三味線 清元	三社祭 (初世清元齊兵衛 作曲)	卯の花 (磯女 作曲)	邦楽囃子 (小鼓) " (大鼓) " (太鼓) " ( 笛 )	連獅子 (二世杵屋勝三郎 作曲)	老松 (四世杵屋六三郎 作曲)	越後獅子 (九世杵屋六左衛門 作曲)	
		志願部門	課題曲																
長唄三味線 長唄	吾妻八景 (四世杵屋六三郎 作曲)																		
	鞍馬山 (二世杵屋勝三郎 作曲)																		
常磐津三味線 常磐津	廓八景 (五世岸澤式佐 作曲)																		
	三保の松 (六世岸澤式佐 作曲)																		
清元三味線 清元	三社祭 (初世清元齊兵衛 作曲)																		
	卯の花 (磯女 作曲)																		
邦楽囃子 (小鼓) " (大鼓) " (太鼓) " ( 笛 )	連獅子 (二世杵屋勝三郎 作曲)																		
	老松 (四世杵屋六三郎 作曲)																		
	越後獅子 (九世杵屋六左衛門 作曲)																		
楽	邦楽囃子	第2回	<p>A. 自由曲1曲 明治45年(西暦1912年)以前に作曲された曲で、第1回課題曲を除いたものを選ぶこと。            時間を要する曲で、上・下又は上・中・下にわかれているものは、それぞれ各1曲とする。</p> <p>B. 志願部門の課題曲より、下記区分に従い1曲を選ぶこと。</p> <table border="1" data-bbox="646 1294 1449 1713"> <thead> <tr> <th>志願部門</th> <th>選択分野</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長唄三味線</td> <td>長唄</td> </tr> <tr> <td>常磐津三味線</td> <td>常磐津</td> </tr> <tr> <td>清元三味線</td> <td>清元</td> </tr> <tr> <td>長唄</td> <td>長唄三味線</td> </tr> <tr> <td>常磐津</td> <td>常磐津三味線</td> </tr> <tr> <td>清元</td> <td>清元三味線</td> </tr> <tr> <td>邦楽囃子</td> <td>長唄三味線又は長唄</td> </tr> </tbody> </table>	志願部門	選択分野	長唄三味線	長唄	常磐津三味線	常磐津	清元三味線	清元	長唄	長唄三味線	常磐津	常磐津三味線	清元	清元三味線	邦楽囃子	長唄三味線又は長唄
		志願部門	選択分野																
長唄三味線	長唄																		
常磐津三味線	常磐津																		
清元三味線	清元																		
長唄	長唄三味線																		
常磐津	常磐津三味線																		
清元	清元三味線																		
邦楽囃子	長唄三味線又は長唄																		
<p>(注)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>三味線の試験においては、受験者には三味線のみをひかせ、唄・浄瑠璃は係員が担当する。唄・浄瑠璃の試験においてはその反対。</li> <li>邦楽囃子の試験においては、「地」は係員が担当する。</li> <li>上記1.及び2.にかかわらず、各自の選んだ自由曲について、本学部が伴奏者の同伴を必要と判断した場合は、その旨を2月中旬までに試験時連絡先へ通知する。この場合、受験者は試験当日伴奏者を同伴すること。</li> <li>邦楽囃子の楽器は各自持参を原則とするが、長唄三味線は本学で用意した楽器を使用する。常磐津・清元三味線の楽器は各自持参すること。</li> <li>邦楽囃子のうち、笛の受験者は能管及び4本から8本までの調子の竹笛を持参すること。竹笛の調子は試験当日に指定する。</li> <li>唄、浄瑠璃の試験に関しては扇子を持参すること。</li> <li>邦楽一般及び三味線音楽について簡単な試問・調絃を行うことがある。</li> <li>邦楽囃子第2回Bにおいては、譜面使用可とする。</li> </ol>																			

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等	
邦     楽	日本舞踊	第1回	<p>課題曲 2曲 男形 長唄 「五郎時致」(芳村伊十郎全集) 女形 長唄 「藤娘」 (芳村伊十郎全集)</p> <p>本学で用意した録音テープで、両曲、試験官の指定した箇所を踊る。 (注) 長唄はコロンビア版、芳村伊十郎長唄全集による録音テープを使用する。</p>
		第2回	<p>A. 自由曲 1曲 課題曲を除いた曲を選ぶ。 当日録音テープを持参、提出し、試験官の指定する箇所を踊る。</p> <p>B. 口頭試問 舞踊に関する基本的な試問を行う。</p> <p>C. 本学で用意した音を聴いて、その場で振りをつける。</p>
		(注) 第1回、2回とも小道具は用いず、扇子及び手拭いをもって代用すること。	
	山田流	第1回	<p>箏：課題曲 1曲 下記の中から 1曲を選択する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>『近江八景』 山登万和 作曲 『江の島曲』 山田検校 作曲 『千鳥曲』 吉沢検校 作曲</p> </div>
	第2回	<p>箏：自由曲 1曲 ※第1回受験曲を除いた古典・近代・現代曲 (第1回で受験した曲を除き、課題曲としてあげられている曲を選択できる。) ※別科を併願する場合は、別科課題曲を除く。</p> <p>三絃：課題曲 1曲 下記の中から 1曲を選択する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>『秋の七草』 文部省音楽取調掛 作曲 『子の日の遊』 二世山木太賀 作曲</p> </div>	
	生田流	第1回	<p>箏：課題曲 1曲 下記の中から 2曲を選択し、試験当日そのうちの 1曲を受験者が抽選により決定する。</p> <p>『ながらの春』 菊岡検校 作曲・八重崎検校 箏手付 一は壱越 (D) 『秋の曲』 吉澤検校 作曲・松阪春栄 補作 一は壱越 (D) 『難波獅子』 継橋検校 作曲 一は双調 (G) 『明治松竹梅(本手)』 菊塚検校 作曲 一は双調 (G)</p>
第2回	<p>箏：自由曲 1曲 1909(明治42)年以降に作曲、又は手付けされた曲。 ただし、楽章単位ではなく 1曲単位で受験すること。</p> <p>三絃：課題曲 1曲 下記の中から 1曲を選択する。</p> <p>『みだれ』 八橋検校 作曲 Iの糸は壱越 (D) 『比良』 宮城道雄 作曲 Iの糸は壱越 (D) 『茶音頭』 菊岡検校 作曲 Iの糸は壱越 (D)</p> <p style="text-align: right;">(次ページに続く)</p>		

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等	
邦	箏曲	<p>(箏曲共通注意事項)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第一回・第二回試験とも暗譜で演奏する。</li> <li>2. 演奏は、箏は立奏（椅子）で行う。三絃は座奏でも立奏（椅子）でもよい。</li> <li>3. 演奏箇所は試験の際に指示する。</li> <li>4. 本手・替手（高音・低音）のあるものは、どちらかを受験曲目提出用紙に明記すること。</li> <li>5. 邦楽一般及び箏曲について簡単な試問を行うことがある。</li> </ol> <p>(山田流試験に関する注意事項)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第二回試験（箏）は、曲名、作曲者名を受験曲目提出用紙の所定欄に明記すること。</li> <li>2. 原則として箏・三絃ともに各自持参の楽器を使用する。ただし、本学で用意した箏・三絃の使用も可能。なお、受験曲目提出用紙の所定欄に持参・借用の別を記入すること。</li> </ol> <p>(生田流試験に関する注意事項)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 箏は本学で用意した楽器（テトロン糸）を使用する。</li> <li>2. 三絃は原則として各自の楽器を使用するが、本学で用意した楽器を使用することもできる。（願書に、持参・借用の区別を明記すること。）</li> </ol>	
	楽尺八	第一回	<p>選択曲 1 曲</p> <p>下記のうちから 1 曲を選んで演奏する。</p> <p>琴古流『三谷菅垣』『雲井獅子』 都山流『木枯』『朝風』（流祖中尾都山 作曲）</p> <p>ア. 五孔尺八の一尺八寸管（竹製）を用いること。</p>
第二回		<p>課題曲 1 曲 尺八本曲</p> <p>琴古流『一二三鉢返調』 都山流『峰の月』（流祖中尾都山 作曲）</p> <p>選択曲 2 曲</p> <p>①外曲古典 下記のうちから 1 曲を選んで演奏する。 『都の春』『臼の声』『夕顔』『茶音頭』</p> <p>②外曲新曲 下記のうちから 1 曲を選んで演奏する。 『赤壁賦』（中能島欣一 作曲） 『春の訪れ』（宮城道雄 作曲） 『春の海』（宮城道雄 作曲）</p> <p>※②外曲新曲については、五孔の一尺六寸管（竹製）を用いること。 ※琴古流の『赤壁賦』は、邦楽社刊箏譜『赤壁賦』（中能島欣一著）に掲載の尺八譜による。</p> <p>ア. 五孔尺八の一尺八寸管（竹製）を用いること（選択曲②は除く） イ. 演奏箇所は、試験の際に指示する。 ウ. 演奏は、椅子又は立姿勢で行う。 エ. 邦楽一般及び尺八について簡単な試問を行うことがある。</p>	
		<p>(注) 1. 尺八受験者は出願の際、琴古流・都山流のいずれかを選択し、出願すること。 2. 全曲暗譜とする。</p>	

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等	
邦	能楽 (囃子を除く)	第1回	<p>(イ) シテ方 (観世流及び宝生流)  (A) 謡曲「羽衣」クセ上げより終わりまで、及び「船弁慶」後シテの出より終わりまで  (B) 仕舞「嵐山」キリ</p> <p>(ロ) ワキ方 (下掛宝生流)  (A) 謡曲「羽衣」クセ上げより終わりまで、及び「船弁慶」後シテの出より終わりまで  (B) 仕舞「羅生門」</p> <p>(ハ) 狂言方 (和泉流)  (A) 謡曲「海道下り」及び「宇治の晒」  (B) 小舞「七つ子」</p> <p>ただし、謡曲の謡う部分については、当日指定する。</p>
		第2回	謡曲及び仕舞又は小舞自由曲1曲ずつ(ただし、第1回および別科の課題曲を除く。) 謡曲はツヨ吟とヨロ吟のある曲を選ぶこと。謡曲の謡う部分については、当日指定する。
		(注) 1. 第1回、第2回とも観世流、宝生流、下掛宝生流、和泉流のいずれかで受験すること。 2. 能楽について簡単な試問を行うことがある。 3. 受験者は着物、袴、白足袋着用のこと。	
楽	能楽囃子	第1回	囃子 下記(イ)～(ニ)より受験する楽器及び課題曲をひとつ選択。 (イ) 笛 (一噌流)「神舞」三段 (ロ) 小鼓 (幸流)「薪之段」鉢木 (ハ) 大鼓 (高安流)「東北」クセ (ニ) 太鼓 (観世流)「巻絹」キリ
		第2回	囃子 自由曲(ただし、第1回及び別科の課題曲を除く。) 謡曲 下記の中から1曲を自由選択。(ただし観世流、または宝生流のいずれかで受験すること。) (イ)「羽衣」 クセ上げより終わりまで (ロ)「船弁慶」 後シテの出より終わりまで (ハ)「経正(政)」 クセ上げより終わりまで
		(注) 1. 上記の曲を一噌流、幸流、高安流、観世流(太鼓)のいずれかで受験すること。 2. 笛、小鼓、太鼓の試験に際しては、各自持参の楽器を使用してもよい。ただし、大鼓については、楽器を使用しない。 3. 地謡の流儀は観世流、または宝生流のいずれかを選ぶこと。 4. 能楽について簡単な試問を行うことがある。 5. 受験者は着物、袴、白足袋着用のこと。	



科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等	
音楽環境創造		第一回	学力検査〔音楽(音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)〕(60分)
		第二回	<p>小論文および面接(自己表現を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●小論文(120分)</li> <li>●面接(20分)自己表現を含む。</li> <li>○自己表現</li> </ul> <p>下記の1～3のいずれかを選択し(受験票に記入)、制限時間内(5分)で行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演奏(声を含む) <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 音楽能力・音楽的感性をアピールしたい場合</li> </ul> </li> <li>2. パフォーマンス(身体表現、舞踊、朗読等) <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 身体表現能力・演劇的感性をアピールしたい場合</li> </ul> </li> <li>3. プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> <li>(パネルやチャート図等によるプランの提示、楽譜等の作品、研究計画書等)</li> <li>※ 演奏技術・身体技能よりも、企画・アイデアをアピールしたい場合</li> </ul> </li> </ol> <p>(自己表現の注意事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1人でできるもの(伴奏者・共演者は認めない)</li> <li>・ セッティングを含めて5分以内で終了すること。</li> <li>・ ピアノは用意されている。それ以外の楽器は各自持参すること。</li> <li>・ AV機器(CD・オーディオカセット・DVD・VHSビデオ)は用意されている。</li> <li>・ コンピュータを持参して使用することは可能だが、機器についてのサポートは一切与えられないので、全て自己責任にて用意すること。</li> <li>・ 「2. パフォーマンス」を行う試験場の床は一般的なフローリングである。床を傷つけないような演目、靴、衣装であること。</li> </ul> <p>(パフォーマンスで使用できる広さは、幅約8m×奥行き約6m。天井の高さは約2m30cm。)</p>

● 音楽環境創造科受験者の志望理由書の提出について

音楽環境創造科志願者は、志望理由書(800字以内。本学所定の用紙に手書きで記入のこと)を願書とともに提出すること。志望理由書は面接時の参考とする。



# ①音楽に関する基礎能力検査

## 1. 筆記試験

### a) 聴音書き取り (試験時間: 約30分)

単旋律 (1題)

複旋律 (1題)

四声体和声 (1題)

作曲科, 声楽科, 器楽科及び楽理科志願者に課す。  
(34ページの例題程度)

### b) 楽典 (試験時間1時間)

音楽環境創造科を除く全科の志願者に課す。和声・楽式等作曲法の内容は含まない。

## 2. 実技試験

### a) 新曲視唱

歌詞を伴わない初見唱。作曲科、声楽科、器楽科及び楽理科志願者に課す。

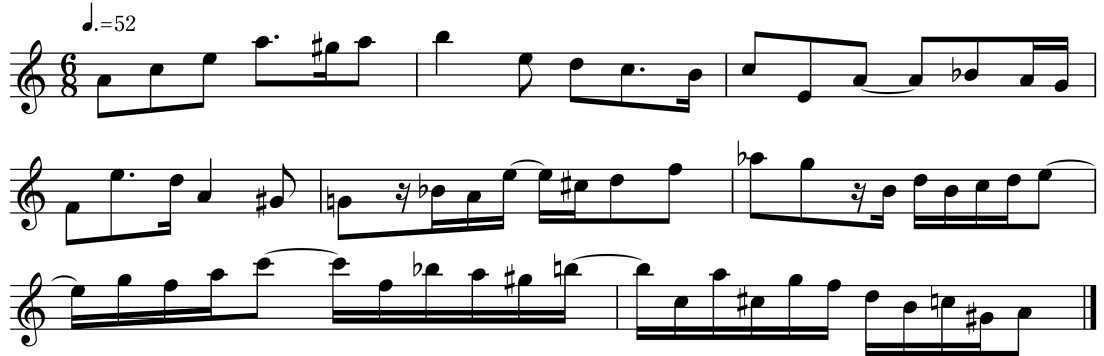
(35ページの例題程度)

### b) リズム課題

作曲科、声楽科、器楽科及び楽理科志願者に課す。(35ページの例題程度)

聴音書き取り例題

単旋律



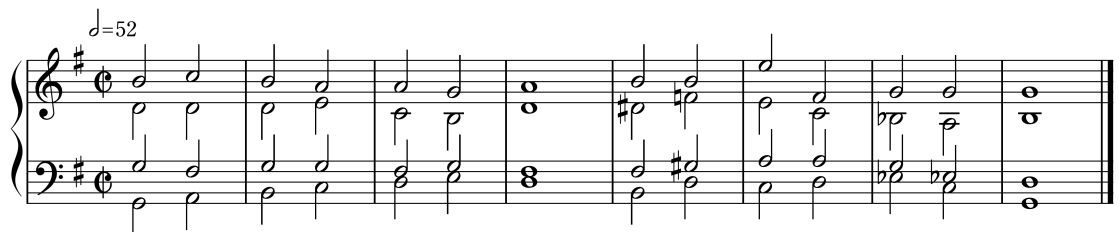
A musical score for a single melody in 6/8 time, marked with a tempo of ♩ = 52. The score consists of three staves of music. The first staff begins with a treble clef, a key signature of one flat (B-flat), and a 6/8 time signature. The melody is written in eighth notes and quarter notes, featuring various accidentals (sharps, flats, naturals) and rests. The second and third staves continue the melody, with the third staff ending with a double bar line.

複旋律



A musical score for a complex melody in 2/4 time, marked with a tempo of ♩ = 54. The score is written for piano and consists of two systems of two staves each. The key signature is one flat (B-flat). The first system shows a treble and bass clef with a 2/4 time signature. The melody is written in eighth and sixteenth notes, with some triplet markings. The second system continues the melody, featuring a triplet of eighth notes in the treble and a sixteenth-note triplet in the bass, both marked with a '3'. A sixteenth-note sextuplet in the treble is marked with a '6', and a sixteenth-note sextuplet in the bass is also marked with a '6'. The piece concludes with a double bar line.

四声体和声



A musical score for four-part harmony in 2/4 time, marked with a tempo of ♩ = 52. The score is written for piano and consists of two staves. The key signature is one sharp (F#). The music is composed of four voices (Soprano, Alto, Tenor, Bass) using quarter and eighth notes. The piece concludes with a double bar line.

## 新曲視唱例題

●作曲科、器楽科、楽理科志願者

●声楽科志願者

## リズム課題例題

手で拍を振りながら、下記のリズムを音名で読みなさい（「タ」等のシラブルでも良いが音名で読むことが望ましい。音程は正しくなくても良い）。

●作曲科、器楽科、楽理科志願者

●声楽科志願者

## ②副科実技等

### 1. 副科ピアノ

受験者区分	試験内容及び課題曲等
<p><b>作曲科</b></p> <p><b>器楽科</b> (オルガンのみ)</p> <p><b>指揮科</b></p> <p><b>楽理科</b> (ピアノでの志願者)</p>	<p>次の(イ)、(ロ)、(ハ)から1つ選択すること。</p> <p>(イ) J.S.Bach : Das Wohltemperierte Klavier 平均律ピアノ曲集第1巻、第2巻より任意の1曲(Praeludium及びFugaの両方を準備する事。)</p> <p>(ロ) L. v. Beethoven : Klaviersonaten Op. 2 No. 1, 2, 3 Op. 7 Op. 10 No. 1, 2, 3 Op. 13 Op. 14 No. 1, 2 Op. 22</p> <p>の中から1曲を選び、その第1楽章</p> <p>(ハ) F. Chopin : 練習曲集Op. 10、25より任意の1曲</p> <p>(注) いずれも暗譜とする。繰り返しなし。</p>
<p><b>声楽科</b></p> <p><b>器楽科</b> (弦楽、管打楽)</p>	<p>(1) 音階 : Hanon No. 39の中から当日指定する。 同一調号による長調と短調 但し速度を♩=100程度以上とする。 (注) 長調の音階は繰り返しなし。短調の音階は和声的短音階を1回弾いた後、続けて旋律的短音階を1回弾き、終止形をつけて終わる。</p> <p>(2) 下記のソナチネ、ソナタより1曲を選び、その第1楽章。 Kuhlau : Op. 20 No. 1, 2, 3 Op. 55 No. 1, 2, 3 Clementi : Op. 36 No. 2, 3, 4, 5, 6 Haydn : Hob. XVI/35 (C-dur) Mozart : KV 545 (C-dur) Beethoven : Op. 49 No. 1, 2 Dusseck : Op. 20 No. 1</p> <p>(注) (1)、(2)とも暗譜とする。繰り返しなし。</p>

## 2. ピアノ以外の副科実技（楽理科のみ）

受験者区分	試験内容及び課題曲等
<p>楽理科は、ピアノ以外の右記の楽器等により副科実技を受験することができる。</p>	<p>オルガン・チェンバロ・弦楽器・管楽器・打楽器・邦楽器（三味線・箏・尺八・邦楽囃子・能楽囃子・雅楽）</p> <p>ただし、弦楽器・管楽器で受験する場合に使用できる楽器は、器楽科弦楽器・管楽器の志願者が出願できる楽器に限る。</p> <p>試験曲は、ヴァイオリン及び邦楽器の場合を除き自由曲である。</p> <p><b>ヴァイオリン課題曲</b></p> <p>W. A. Mozart : Violin Concerto No. 3 in G major, K. 216より 第1楽章、Allegro</p> <p>(注) Cadenzaを除く。暗譜とし、伴奏なし。</p> <p><b>邦楽課題曲</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三味線 <ul style="list-style-type: none"> <li>「小鍛冶」（二世杵屋勝五郎作曲）</li> </ul> </li> <li>・箏曲（山田流） <ul style="list-style-type: none"> <li>「秋の七草」（音楽取調掛作）</li> </ul> </li> <li>・箏曲（生田流） <ul style="list-style-type: none"> <li>「春の曲」（吉沢検校作曲）一＝壱越（D）</li> </ul> </li> <li>・尺八（琴古流・都山流）共通 <ul style="list-style-type: none"> <li>「六段の調」（八橋検校作曲）</li> </ul> </li> <li>・邦楽囃子 <ul style="list-style-type: none"> <li>「五郎時致」（三升屋二三治作詞、十代目杵屋六左衛門作曲）</li> <li>(注) 四拍子の中より一つを選択する。</li> </ul> </li> <li>・能楽囃子 <ul style="list-style-type: none"> <li>笛 「中ノ舞」</li> <li>小鼓 「羽衣 クセ」</li> <li>大鼓 「羽衣 クセ」</li> <li>太鼓 「鶴亀 キリ」</li> </ul> </li> <li>・雅楽 <ul style="list-style-type: none"> <li>平調 「越天楽」</li> <li>(注) 管楽器の中より一つを選択する。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>※上記いずれかの楽器で受験した場合は、副科ピアノを受験する必要はない。</b></p>

### 3. ピアノ新曲

受験者区分	試験内容及び課題曲等
作曲科	初見奏


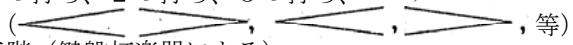
### 4. 和声

受験者区分	試験内容及び課題曲等
指揮科 楽理科	指揮科及び楽理科志願者のみに課す。試験時間1時間30分。与えられたバス及びソプラノの声部により、それぞれ4声体の和声を作る。指揮科課題・楽理科課題とも近親転調を含む。

# 大学別科

試験内容および試験曲等

専修	声種・楽器等	試験内容及び試験曲等
声楽	ソプラノ(S) アルト(A) (メゾソプラノを訖) テノール(T) バス(B) (バリトンを訖)	自由曲1曲を演奏する。(オペラ、オラトリオの aria は原調。) <u>暗譜のこと。</u>  (注) 1. 伴奏楽譜は各自提出しなければならない。 2. 演奏する曲は学部声楽科課題曲と同じものでも差しつかえない。 3. 演奏時間は4分以内とする。 4. 伴奏者は本学で用意する。
器楽	ピアノ (Pf)	次の8曲から1曲を選択し、その第1楽章と終楽章を用意すること。 Beethoven : ピアノソナタ ・第2番 イ長調 作品2-2 ・第3番 ハ長調 作品2-3 ・第4番 変ホ長調 作品7 ・第5番 ハ短調 作品10-1 ・第6番 ヘ長調 作品10-2 ・第11番 変ロ長調 作品22 ・第16番 ト長調 作品31-1 ・第18番 変ホ長調 作品31-3 ・第21番 ハ長調 作品53「ワルトシュタイン」 I) 演奏は暗譜とする。 II) 時間の都合で演奏を一部省略させることがある。 III) 繰り返しは省略すること。
	オルガン (Org)	自由曲 (注) 実技試験の行われるオルガンの仕様については、本冊子学部オルガン科の項を参照すること。当日、時間の都合により一部省略させることがある。
	ヴィオラ (Va)	(A) 音階 ヘ短調 (音階、分散和音、分散3度、半音階、3度の重音)を演奏すること。 ※学部入試第1回試験の音階の課題(イ)(ロ)を参照のこと。 (B) C.Stamitz : Viola Concerto No.1 ニ長調 (D-dur) より第1楽章 Allegro moderato (カデンツァは除く) ※ Henle 版を使用 (注) 暗譜とし、伴奏なしとする。場合により一部を省略させることがある。 (A) (B)の順で演奏すること。
	チェロ (Vc)	次のうち、任意の1曲を選んで演奏すること。 (A) L.Boccherini : Concerto B-dur 第1楽章 (Grützmacher 編) Cadenza は除く。 (B) J.Haydn : Concerto C-dur 第1楽章 (楽譜は何版を使ってもよい) Cadenza は除く。 (C) C.Saint-Saëns : Concerto a-moll Op.33 第1楽章 (D) E.Lalo : Concerto d-moll 第1楽章 (初めから117小節 Lento まで) (注) 暗譜とし、伴奏なしとする。場合により一部を省略させることがある。
	コントラバス (Cb)	自由曲 (注) 暗譜とし、伴奏なしとする。場合により一部を省略させることがある。
ハープ (Hp)	自由曲 (注) 暗譜とする。場合により一部を省略させることがある。	

専修	声種・楽器等	試験内容及び試験曲等	
器	<b>◎管楽器共通注意事項</b> (1) 音階 各調の中より当日指定する。ただし、金管楽器は音楽学部に進じる。 (2) 課題曲 ただし伴奏はなしとする。 (注) 特に指定したもの以外は、楽譜を使用してもよい。		
	木	フルート (F l)	J.Ibert : Pièce
		オーボエ (O b)	C.Ph.E.Bach : 無伴奏ソナタ g-Moll 第1, 2楽章 (何版にても可) (注)原曲は Sonate a-Moll Wq.132 無伴奏フルートソナタ
		クラリネット (C l)	C.M.v.Weber : Konzert Nr.1 f-Moll für Klarinette und Orchester Op.73 第1楽章 (ベールマンのカデンツァを含む)
		ファゴット (Fg)	C.M.v.Weber : Concerto for Bassoon 第2,3楽章 (何版にても可)
		サクソフォーン (S x)	J.Ibert : Concertino da Camera (Leduc 版)
	金	ホルン (H r)	W.A.Mozart : Konzert für Horn und Orchester Nr.4 Es-Dur K.495 第1楽章 (任意のカデンツァを含む)
		トランペット (T p)	(A)Arban : Complete Grand Method (全音楽譜出版社版) より 長音階 P.65 ~ P.80, 短音階 P.81 第70 ~ 81 番 上記の中より当日指定する。 (注)B ♭ Trumpet を使用のこと。 (B)H.Tomasi : Concerto 第1楽章より当日指定する。 (注)C Trumpet を使用のこと。
		◎テナー・トロンボーン、バス・トロンボーン共通課題 E.Remington : Warm-Up Exercises for Trombone ( Accura Music 版 ) より下記の部分  第7ポジションまで演奏すること。(注)暗譜とする。	
	管	テナー・トロンボーン (T T b)	C. Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社版) より (A)No.26 暗譜で演奏すること。 (B)No.29,34,35,36,37,39,41,42,43,44 の中から当日指定する。 楽譜は使用して良い。
		バス・トロンボーン (B T b)	C. Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社版) より (A)No. (19) 暗譜で演奏すること。 (B)No. (37), (42), 43, 46, (49), 50, (52), (54), 55, 56 の中から当日指定する。 楽譜は使用して良い。 (注) ( ) の曲は1オクターブ下で演奏すること。他は記譜通り。
		ユーフォニアム (E u p h)	C.Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社版) No.6 ~ No.33 (No.29は除く) より当日指定する。
チューバ (T u)		C.Kopprasch : Sixty Selected Studies for Tuba (Hoffmeister 版) No.6 ~ No.33 より当日指定する。	
打楽器 (P c)	(1) 小太鼓による基本奏法 1つ打ち、2つ打ち、5つ打ち、ロール (  , 等) (2) 音階 (鍵盤打楽器による) (3) Collection Drum Solos (Ludwig 社版)より P.4 ~ P.19の中から 当日指定する。 (4) 自由曲 (5) 音感テスト (注) 小太鼓は、各自持参すること。		



専修	声種・楽器等	試験内容及び試験曲等
器 古      楽 楽	<p>◎古楽共通注意事項</p> <p>① ソロおよび伴奏に使えるチェンバロは、2段鍵盤フレンチタイプ(a'=415,8'8'4', FF-f''')のみとする。</p> <p>② 実技試験の行われるオルガンの仕様については、本冊子学部オルガン科の項を参照すること。</p> <p>③ フォルテピアノは、18世紀末のウィーン式モデル(a'=430,音域FF-g''')である。</p> <p>④ 必要な伴奏者は同伴すること。ただし、オブリガートパートが必要な場合は、すべてチェンバロで代用すること。</p> <p>⑤ すべての受験生に面接を課す。</p> <p>⑥ すべての受験生は、受験曲目提出用紙に演奏する自由曲の作品名を書いて、出願とともに提出すること。</p> <p>⑦ 各自の演奏する楽譜を3部ずつ用意して演奏順に綴じ、出願とともに教務係に送付すること。なお、所定の出願用封筒に用意した楽譜が入りきらない場合、出願書類は所定の封筒にて提出し、当該楽譜のみ「別科古楽受験用楽譜在中」と表書きした任意の封筒にて出願と同時に書留速達により郵送すること。このとき、学部声楽科伴奏楽譜送付用封筒を用いてはならない。</p>	
	<p>バロック声楽 (BV)</p>	<p>5分程度の自由曲</p>
	<p>バロックヴァイオリン (BVn)</p>	<p>5分程度の自由曲</p>
	<p>バロックチェロ (BVc)</p>	<p>5分程度の自由曲</p>
	<p>リコーダー (Rec)</p>	<p>5分程度の自由曲</p>
	<p>チェンバロ (Cemb)</p>	<p>5分程度の自由曲</p>
	<p>バロックオルガン (BOrg)</p>	<p>5～7分程度の自由曲</p>
	<p>フォルテピアノ (Fp)</p>	<p>5分程度の自由曲</p>

専修	声種・楽器等	試 験 内 容 及 び 試 験 曲 等																																													
邦	<b>◎邦楽共通注意事項</b> 受験者は、志願する専修部門に応じて下記の課題曲を暗譜で演奏すること。 ただし、長唄・常磐津・清元の志願者は唄本（歌詞のみ）を用いてもよい。																																														
	長唄三味線 常磐津三味線 清元三味線 長唄 常磐津 清元 邦楽囃子(笛含む)	<b>●専修部門課題曲</b> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">専修部門</th> <th style="text-align: center;">課 題 曲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">長唄三味線</td> <td>「秋色種」 (十世杵屋六左衛門 作曲)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">常磐津三味線</td> <td>「角兵衛」 (四世杵屋三郎助・五世岸澤式佐 作曲)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">清元三味線</td> <td>「神田祭」 (初世清元齊兵衛 作曲)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">長唄</td> <td>「秋色種」 (十世杵屋六左衛門 作曲)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">常磐津</td> <td>「角兵衛」 (四世杵屋三郎助・五世岸澤式佐 作曲)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">清元</td> <td>「神田祭」 (初世清元齊兵衛 作曲)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">邦楽囃子(小鼓)</td> <td>「舌出し三番叟」 (二世杵屋正治郎 作曲)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">" (大鼓)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">" (太鼓)</td> <td>「四季の山姥」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">" ( 笛 )</td> <td>(十一世杵屋六左衛門 作曲)</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>●専修部門以外の実技試験は、下記区分に従い自由曲1曲を選び、曲目提出用紙の所定欄に記入すること。ただし、暗譜の有無は問わない。</b></p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">専修部門</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">専修部門以外の実技試験</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">長唄三味線</td> <td style="text-align: center;">長唄</td> <td style="text-align: center;">自由曲</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">常磐津三味線</td> <td style="text-align: center;">常磐津</td> <td style="text-align: center;">自由曲</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">清元三味線</td> <td style="text-align: center;">清元</td> <td style="text-align: center;">自由曲</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">長唄</td> <td style="text-align: center;">長唄三味線</td> <td style="text-align: center;">自由曲</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">常磐津</td> <td style="text-align: center;">常磐津三味線</td> <td style="text-align: center;">自由曲</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">清元</td> <td style="text-align: center;">清元三味線</td> <td style="text-align: center;">自由曲</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">邦楽囃子</td> <td style="text-align: center;">長唄三味線又は長唄</td> <td style="text-align: center;">自由曲</td> </tr> </tbody> </table> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 三味線の試験においては、受験者には三味線のみをひかせ、唄・浄瑠璃は係員が担当する。唄・浄瑠璃の試験においてはその反対。</li> <li>2. 邦楽囃子の試験においては、「地」は係員が担当する。</li> <li>3. 邦楽囃子の楽器は、各自持参を原則とするが、長唄三味線は、本学で用意した楽器を使用する。常磐津・清元三味線の楽器は各自持参すること。ただし、邦楽囃子のうち、笛の受験者は能管および4本から8本までの調子の竹笛を持参すること。竹笛の調子は試験当日に指定する。</li> <li>4. 邦楽一般及び三味線音楽について簡単な試問・調絃を行うことがある。</li> </ol>	専修部門	課 題 曲	長唄三味線	「秋色種」 (十世杵屋六左衛門 作曲)	常磐津三味線	「角兵衛」 (四世杵屋三郎助・五世岸澤式佐 作曲)	清元三味線	「神田祭」 (初世清元齊兵衛 作曲)	長唄	「秋色種」 (十世杵屋六左衛門 作曲)	常磐津	「角兵衛」 (四世杵屋三郎助・五世岸澤式佐 作曲)	清元	「神田祭」 (初世清元齊兵衛 作曲)	邦楽囃子(小鼓)	「舌出し三番叟」 (二世杵屋正治郎 作曲)	" (大鼓)		" (太鼓)	「四季の山姥」	" ( 笛 )	(十一世杵屋六左衛門 作曲)	専修部門	専修部門以外の実技試験		長唄三味線	長唄	自由曲	常磐津三味線	常磐津	自由曲	清元三味線	清元	自由曲	長唄	長唄三味線	自由曲	常磐津	常磐津三味線	自由曲	清元	清元三味線	自由曲	邦楽囃子	長唄三味線又は長唄
専修部門	課 題 曲																																														
長唄三味線	「秋色種」 (十世杵屋六左衛門 作曲)																																														
常磐津三味線	「角兵衛」 (四世杵屋三郎助・五世岸澤式佐 作曲)																																														
清元三味線	「神田祭」 (初世清元齊兵衛 作曲)																																														
長唄	「秋色種」 (十世杵屋六左衛門 作曲)																																														
常磐津	「角兵衛」 (四世杵屋三郎助・五世岸澤式佐 作曲)																																														
清元	「神田祭」 (初世清元齊兵衛 作曲)																																														
邦楽囃子(小鼓)	「舌出し三番叟」 (二世杵屋正治郎 作曲)																																														
" (大鼓)																																															
" (太鼓)	「四季の山姥」																																														
" ( 笛 )	(十一世杵屋六左衛門 作曲)																																														
専修部門	専修部門以外の実技試験																																														
長唄三味線	長唄	自由曲																																													
常磐津三味線	常磐津	自由曲																																													
清元三味線	清元	自由曲																																													
長唄	長唄三味線	自由曲																																													
常磐津	常磐津三味線	自由曲																																													
清元	清元三味線	自由曲																																													
邦楽囃子	長唄三味線又は長唄	自由曲																																													
楽																																															

専修	声種・楽器等	試験内容及び試験曲等							
邦      楽	箏      曲	山 田 流	<p>※下記の〈古典〉〈現代〉のどちらかを選択し受験する。</p> <table border="1"> <tr> <td>古典</td> <td>『松風』三世山木大賀、初代中能島松聲 作曲 箏・三絃どちらの楽器を用いてもよい。</td> </tr> <tr> <td>現代</td> <td>『赤壁賦』中能島欣一 作曲</td> </tr> </table>	古典	『松風』三世山木大賀、初代中能島松聲 作曲 箏・三絃どちらの楽器を用いてもよい。	現代	『赤壁賦』中能島欣一 作曲		
			古典	『松風』三世山木大賀、初代中能島松聲 作曲 箏・三絃どちらの楽器を用いてもよい。					
			現代	『赤壁賦』中能島欣一 作曲					
			●山田流箏曲注意事項						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演奏箇所は試験の際に指示する。古典による出願者は、箏・三絃のいずれかを選択し曲目提出用紙の所定欄に記入すること。</li> <li>2. 原則として箏・三絃ともに各自持参の楽器を使用する。</li> <li>3. 本学で用意した箏（テトロン糸）・三絃（絹糸）の使用も可能。なお、曲目提出用紙の所定欄に持参、借用の別を記入すること。</li> <li>4. 演奏は、箏は立奏（椅子）で行う。三絃は座奏でも立奏（椅子）でもよい。</li> <li>5. 暗譜で演奏すること。</li> </ol>									
<p>※下記の中から、箏・三絃各1曲を選択する。 ただし、学部と併願する場合は、学部への出願曲と重複しないこと。</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="4">箏</td> <td>『ながらの春』 菊岡検校 作曲・八重崎検校 箏手付 一は壺越（D）</td> </tr> <tr> <td>『秋の曲』 吉澤検校 作曲・松阪春栄 補作 一は壺越（D）</td> </tr> <tr> <td>『難波獅子』 継橋検校 作曲 一は双調（G）</td> </tr> <tr> <td>『明治松竹梅（本手）』 菊塚検校 作曲 一は双調（G）</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">三 絃</td> <td>『みだれ』 八橋検校 作曲 Iの糸は壺越（D）</td> </tr> <tr> <td>『比良』 宮城道雄 作曲 Iの糸は壺越（D）</td> </tr> <tr> <td>『茶音頭』 菊岡検校 作曲 Iの糸は壺越（D）</td> </tr> </table>	箏	『ながらの春』 菊岡検校 作曲・八重崎検校 箏手付 一は壺越（D）	『秋の曲』 吉澤検校 作曲・松阪春栄 補作 一は壺越（D）	『難波獅子』 継橋検校 作曲 一は双調（G）	『明治松竹梅（本手）』 菊塚検校 作曲 一は双調（G）	三 絃	『みだれ』 八橋検校 作曲 Iの糸は壺越（D）	『比良』 宮城道雄 作曲 Iの糸は壺越（D）	『茶音頭』 菊岡検校 作曲 Iの糸は壺越（D）
箏		『ながらの春』 菊岡検校 作曲・八重崎検校 箏手付 一は壺越（D）							
		『秋の曲』 吉澤検校 作曲・松阪春栄 補作 一は壺越（D）							
		『難波獅子』 継橋検校 作曲 一は双調（G）							
	『明治松竹梅（本手）』 菊塚検校 作曲 一は双調（G）								
三 絃	『みだれ』 八橋検校 作曲 Iの糸は壺越（D）								
	『比良』 宮城道雄 作曲 Iの糸は壺越（D）								
	『茶音頭』 菊岡検校 作曲 Iの糸は壺越（D）								
●生田流箏曲注意事項									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 箏は本学で用意する（18番テトロン糸）。</li> <li>2. 三絃は各自持参とするが、本学で用意した楽器を使用することもできる（曲目提出用紙に、持参・借用の区別を明記すること）。</li> <li>3. 演奏箇所は試験の際に指示する。</li> <li>4. 演奏は、箏は立奏（椅子）で行う。三絃は座奏でも立奏でもよい。</li> <li>5. 暗譜で演奏すること。</li> </ol>									

専修	声種・楽器等	試験内容及び試験曲等
邦	尺 八	<p>(1) 課題曲 1 曲  「楫枕」 菊岡検校作曲  「越後獅子」 峰崎勾当作曲  「江の島曲」 山田検校作曲  「近江八景」 山登万和作曲  以上の 4 曲のうち 1 曲を選択。</p> <p>(2) 本曲 1 曲 (曲目は自由)</p> <p>(注) 1. 流派は問わない。  2. 全曲暗譜とする。  3. 五孔尺八の一尺八寸管 (竹製) を用いること。  4. 演奏箇所は試験の際に指示する。  5. 演奏は、椅子又は立姿勢で行う。  6. 邦楽一般及び尺八について簡単な試問を行うことがある。</p>
	能 楽 (囃子を除く)	<p>シテ方 (観世流及び宝生流)  謡曲 「網之段」 (桜川)  仕舞 「岩船」</p> <p>ワキ方 (下掛宝生流)  謡曲 「網之段」 (桜川)  仕舞 「蟻通」</p> <p>狂言方 (和泉流)  謡曲 「大原木」  小舞 「海道下り」</p> <p>(注) 受験者は着物、袴、白足袋着用のこと。</p>
能 楽 囃 子		<p>下記の中から 1 つを自由選択  (イ) 笛 (一噌流) 「男舞」 (三段)  (ロ) 小鼓 (幸流) 「経正(政)」キリ  (ハ) 大鼓 (高安流) 「敦盛」クセ  (ニ) 太鼓 (観世流) 「杜若」キリ (昔男のヨリ)</p> <p>(注)  1. 笛以外の楽器は、地謡の流儀 (観世流、宝生流のいずれか) を受験曲目提出用紙に記入すること。  2. 受験者は着物、袴、白足袋着用のこと。</p>